

令和7年度第1回紀南地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和7年度紀南地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 紀南地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・ P 2
- 【資料1】 令和6年度第2回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・ P 3
- 紀南地域の高等学校を取り巻く状況について —————
- 【資料2】 東紀州地域の中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）・・・・ P 5
- 【資料3】 熊野市・南牟婁郡中学校卒業者数と
紀南地域の高等学校（全日制）への入学者数・・・・・・・・ P 6
- 【資料4】 東紀州地域の高等学校（全日制）の入学者選抜の状況・・・・ P 7
- 【資料5】 東紀州地域の高等学校への進学希望者数と令和7年度入学者数・・・ P 8
- 熊野青藍高等学校について —————
- 【資料6】 熊野青藍高等学校の概要・・・・・・・・・・ P 12
- 【資料7】 全日制課程における学びについて
～各学科（系列・コース）についてのQ & A～・・・・ P 14
- 【資料8】 定時制課程における学びについて・・・・・・・・ P 18
- 【資料9】 令和7年度のこれまでの取組について（全日制課程）・・・・ P 19
- 【資料10】 部活動について・・・・・・・・ P 24
- 【資料11】 今後の取組について・・・・・・・・ P 26
- 【資料12】 高校生活入門講座について・・・・・・・・ P 28
- 【資料13】 入学者選抜について・・・・・・・・ P 32

令和7年度 紀南地域高等学校活性化推進協議会 委員名簿

	区 分	所 属 等	名 前	新・継
1	学識経験者	三重大学教育学部 教授	ひらやま だいすけ 平山 大輔	継
2	地域有識者	熊野商工会議所 青年部幹事	もりもと けんいち 森本 健一	継
3		文恵丸水産 代表	ながやま ゆきふみ 長山 行文	継
4		紀宝町商工会 理事	うぶやしき みちひろ 産屋敷 道博	継
5	市町教育委員会	熊野市教育委員会 教育長	くらもと かつや 倉本 勝也	継
6		御浜町教育委員会 教育長	つじもと せいいち 辻本 誠一	継
7		紀宝町教育委員会 教育長	にし あきら 西 章	継
8	小中学校PTA代表	紀南PTA連合会	にしむら まさき 西村 誠喜	新
9		紀南PTA連合会	まえがわ まさこ 前川 真子	新
10	高等学校PTA代表	木本高等学校・熊野青藍高等学校木本校舎PTA 会長	みちまえ りょうた 道前 涼太	継
11		紀南高等学校・熊野青藍高等学校紀南校舎PTA 会長	ふじた しんご 藤田 信吾	継
12	同窓会・地域代表	木本高等学校同窓会 会長	もりおか ただお 森岡 忠雄	継
13		紀南高等学校・熊野青藍高等学校紀南校舎 学校運営協議会 会長	やまもと あきひこ 山本 章彦	継
14	小中学校校長代表	御浜町立尾呂志学園小学校 校長	かわぐち あき 川口 亜紀	新
15		紀宝町立矢渕中学校 校長	いわもと たくし 岩本 拓志	新
16	小中学校教員代表	御浜町立御浜小学校 教諭	きのした ゆうすけ 木下 雄介	継
17		熊野市立有馬中学校 教諭	ながさか まさし 永阪 将志	新
18	県立高等学校長	熊野青藍高等学校・木本高等学校・紀南高等学校 校長	ふくだ ひでなり 福田 英成	継
19	県立高等学校教員代表	熊野青藍高等学校・紀南高等学校 教諭	こみや のりたか 込谷 徳隆	継

紀南地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

（設 置）

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、紀南地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、紀南地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- （1）今後の紀南地域全体における県立高等学校のあり方に関する事
- （2）紀南地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- （3）施設・設備に関する事
- （4）その他検討を要する事

（組 織）

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（調査委員会）

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

（会 議）

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

（その他）

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成24年 7月18日から施行する。

この要綱は平成29年 6月12日から施行する。

令和 6 年度第 2 回紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和 6 年 1 2 月 1 2 日（木） 1 9 時 0 0 分から 2 0 時 5 5 分まで

2 場所 三重県熊野庁舎 大会議室

3 概要

当協議会の設置要綱に基づき、関係者として御浜町、紀宝町の中学校代表として校長 1 名ずつの出席を求め、各市町における中学生の状況を共有しました。その上で、令和 7 年度に木本高校と紀南高校を統合して開校する熊野青藍高校（木本校舎・紀南校舎）について、両校の校長をリーダーとするワーキング会議における検討状況を報告し、各課程、学科（系列・コース）の学びのあり方などについて協議を行いました。

主な意見は次のとおりです。

《各市町の中学生の状況について》

（◇：各市町中学校長からの報告）

◇（紀宝町）これまでの木本高校と紀南高校の実績から、中学生の進路選択の軸が熊野青藍高校であることは変わっていない。しかし、和歌山県立新宮高校が令和 7 年度入学生から実施する全国募集の影響もあり、地域の中学校が独自に実施している 1 1 月調査では、熊野青藍高校への進学希望者数が 7 月調査と比べて少し減っている。明確に目標がある生徒が各高校のオープンスクールに参加し、より自分のニーズに合った学校へと志望先を変えているようだ。

◇（御浜町）1 1 月調査と 7 月調査を比べると、紀南校舎への進学希望者数は変わっていないが、木本校舎への進学希望者数は減少しており、その減少分の約半数は、近大新宮高校へと希望を変更している。オープンスクールや各中学校における学校説明会で、熊野青藍高校について説明をしてもらっているが、特に木本校舎の魅力が十分に伝わっていないように感じている。

◇（熊野市）当市の中学生が他地域の高校への進学を希望する理由の多くは部活動である。子どもたちが高校を選択する際に、部活動が大きなウェイトを占めていることをふまえて、熊野青藍高校の活性化について協議を進めてほしい。一方で、大学進学をはじめとするキャリア形成に関しては、引き続き熊野青藍高校への期待は大きいものがある。

○ 中学生の志望が時間とともに県立高校から近大新宮高校へ移っていく傾向は、統合前と変わっていない。この要因をしっかりと分析し、次年度以降も志願者の増加に努める必要がある。ワーキング会議や当協議会における検討状況を子どもたちや保護者にどのように伝え、理解してもらうかなど、もっと小中学校と連携をとって進めてほしい。

《熊野青藍高校の学びについて》

(WL) = 熊野青藍高等学校ワーキングリーダー (木本高等学校長、紀南高等学校長)

- スクール・ポリシーとキャリア教育プログラムの関連性が見えにくい。グラデュエーション・ポリシーに掲げられている自己肯定感を高めるために、具体的にどのようなプログラムを組むのが大切である。また、子どもたちの自己肯定感の高まりをどのように評価していくのかについても考える必要がある。生徒がさまざまな活動を通じて何を学び、何ができるようになるのかという視点を大切に、開校に向けた準備を進めてもらいたい。
- 地域の事業所はどこも人手が足りない状況である。授業内容やキャリア教育についての説明を聞いても、子どもたちが将来地元に戻って活躍してくれるイメージが湧いてこない。行政も含めて地域を活性化するとともに、この地域を大切に、この地域で活躍する人材を育てるということも一つの方向性として考えてほしい。
- 現在紀南高校で行っている通級指導を引き続き実施し、さらに充実させてほしい。
⇒ (WL) 通級指導については、熊野青藍高校においても引き続き実施していく。
- 開校にあたり教員の加配や予算措置などについて、県からの支援をお願いしたい。
⇒ (事務局) 校舎間交流のためのバスを中心として予算を計上している。また、教員配置についても学級減に伴って教職員定数は減るが、できる限りの配慮はしたいと考えている。

《部活動について》

- 部活動の方針については、もっと早い段階で出してほしかったというのが率直な思いである。野球部や女子バスケットボール部への入部を希望する生徒が、少なからず近大新宮高校への進学を希望していることも考慮してほしい。
- もっと早期に中学・高校間で情報共有をしておくべき事項であった。部活動に限らず、日常的に情報共有を行い、地域の子どもたちが他県へ流出していることに危機感を持って取り組んでほしい。
⇒ (WL) 本日委員の皆様からいただいたご意見は全教職員に共有し、今後の取組に生かしていく。

《開校式について》

資料13に示された日程(4月8日)から、令和7年4月9日(水)に変更して開催することがWLより報告されました。

東紀州地域の中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

令和7年5月1日 教育政策課調べ

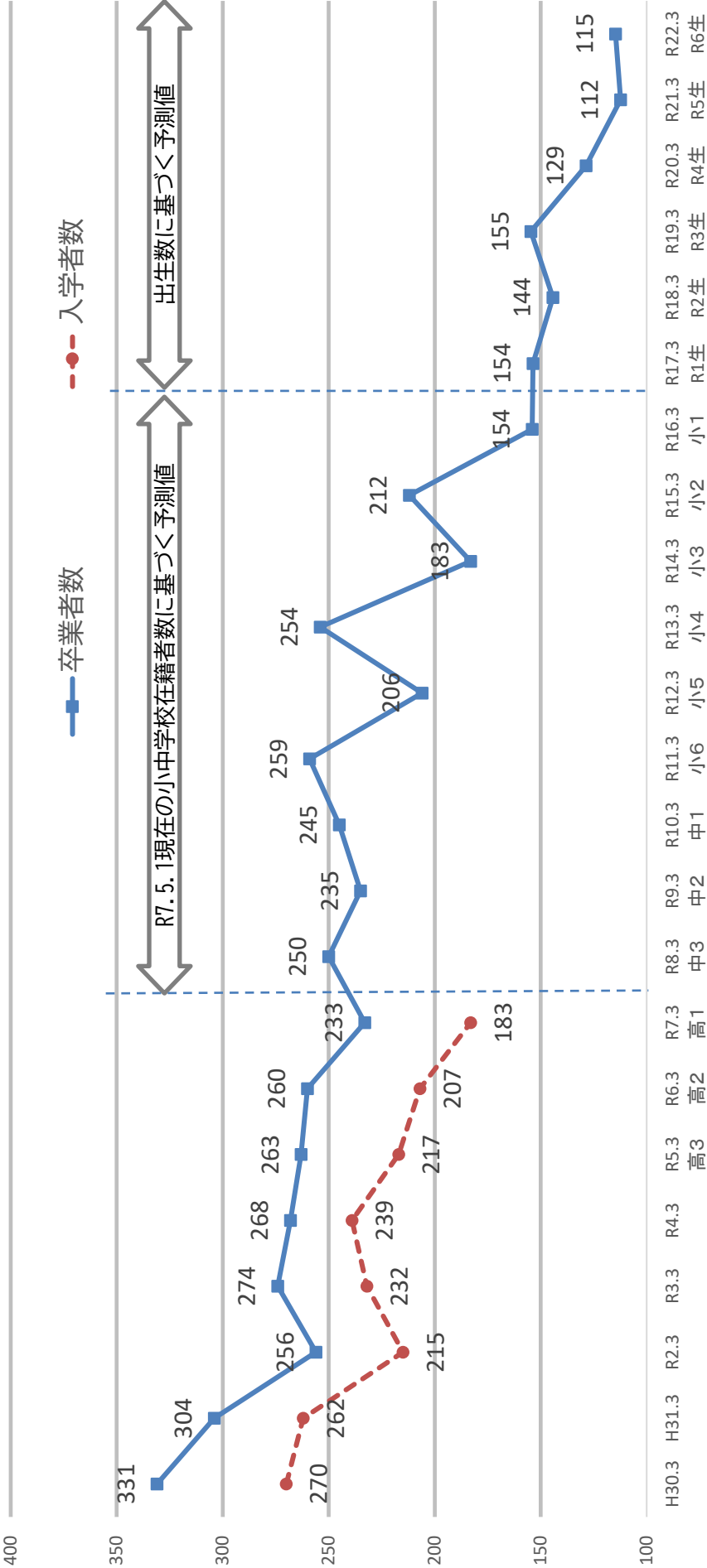
	R 4.3 卒業	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 現中3	R 9.3 現中2	R 10.3 現中1	R 11.3 現小6	R 12.3 現小5	R 13.3 現小4	R 14.3 現小3	R 15.3 現小2	R 16.3 現小1
尾鷲市	卒業者数	127	120	120	105	99	115	84	66	88	71	69	72
	前年度対比		-7	0	-15	-6	16	-31	-17	22	-17	-2	3
	R7.3対比					-6	10	-21	-39	-17	-34	-36	-33
北牟婁郡	卒業者数	121	100	93	76	98	78	70	82	63	67	57	55
	前年度対比		-21	-7	-17	22	-20	-8	12	-8	4	-10	-2
	R7.3対比					22	2	-6	-5	-13	-9	-19	-21
小計	卒業者数	248	220	213	181	197	193	154	165	151	138	126	127
	前年度対比		-28	-7	-32	16	-4	-39	11	14	-13	-12	1
	R7.3対比					16	12	-27	-16	-30	-43	-55	-54
熊野市	卒業者数	119	101	107	97	109	103	105	119	102	82	93	52
	前年度対比		-18	6	-10	12	-6	2	14	1	-20	11	-41
	R7.3対比					12	6	8	22	5	-15	-4	-45
南牟婁郡	卒業者数	149	162	153	136	141	132	140	105	152	101	119	102
	前年度対比		13	-9	-17	5	-9	8	0	47	-51	18	-17
	R7.3対比					5	-4	4	-31	16	-35	-17	-34
小計	卒業者数	268	263	260	233	250	235	245	206	254	183	212	154
	前年度対比		-5	-3	-27	17	-15	10	-53	48	-71	29	-58
	R7.3対比					17	2	12	-27	21	-50	-21	-79
東紀州合計	卒業者数	516	483	473	414	447	428	399	343	405	321	338	281
	前年度対比		-33	-10	-59	33	-19	-29	-81	62	-84	17	-57
	R6.3対比					33	14	-15	-71	-9	-93	-76	-133

《参考》

木本高校	募集定員	160	160	160				
	欠員	1	20	0				
紀南高校	募集定員	80	80	80				
	欠員	0	3	36				
熊野青藍 高校	募集定員				160	160		
	校舎				9			
	紀南				40	40		
	校舎				9			

紀南地域の 入学定員の推移予測									
R 8年度					R 9年度				
5 学級					5 学級程度				
R 16年度					R 15年度				
4 学級程度					5 学級程度				

熊野市・南牟婁郡中学校卒業者数と紀南地域の高等学校（全日制）への入学者数



【熊野市・南牟婁郡の出生数】

	H30年度生	R元年度生	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生
	現小1	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳	0～1歳
熊野市	60	87	82	68	54	56	47
御浜町	39	25	20	38	29	28	29
紀宝町	71	53	53	61	56	37	48
合 計	170	165	155	167	139	121	124

東紀州地域の高等学校（全日制）の入学者選抜の状況【令和７年度：現高１】

学校名		学科・コース	R 7 入学 定員	R 6. 1 2 進学希望者数		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学 者数	欠員
						定員との 差	募集人数	志願者数	合格内定者数	募集人数	志願者数	合格者数	募集人数	志願者数		
熊野青藍	木本校舎	普通	120	115	▲ 5				120	111	111	9	0	0	111	9
		総合学科	40	41	1	12	31	12	28	29	28				41	0
	紀南校舎	総合学科	40	27	▲ 13	12	11	11	29	20	20	9	0	0	31	9
		計	200	183	▲ 17	24	42	23	177	160	159	18	0	0	183	18
尾鷲		普通	70	41	▲ 29	21	30	23	47	26	26	21	2	2	51	19
		プログレッシブ コース	30	16	▲ 14	9	15	10	20	6	6	14	0	0	16	14
		情報ビジネス	30	17	▲ 13	9	13	9	21	8	8	13	1	1	18	12
		システム工学	30	14	▲ 16	9	9	9	21	5	5	16	0	0	14	16
		計	160	88	▲ 72	48	67	51	109	45	45	64	3	3	99	61
地域内高校 計			360	271	▲ 89	72	109	74	286	205	204	82	3	3	282	79

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

※「R 6. 1 2 進学希望者数」は、県内の国公私立中学校３年生を対象に実施された調査結果

東紀州地域の高等学校（全日制）の入学者選抜の状況【令和６年度：現高２】

学校名	学科・コース	R 6 入学 定員	R 5. 1 2 進学希望者数		前期選抜等			後期選抜			再募集			入学 者数	欠員
				定員との 差	募集人数	志願者数	合格内定者数	募集人数	志願者数	合格者数	募集人数	志願者数	合格者数		
木本	普通	120	120	0				120	121	120				123	0
	総合学科	40	40	0	20	37	22	18	21	16				40	0
	計	160	160	0	20	37	22	138	142	136				163	0
紀南	普通	80	47	▲ 33	24	37	24	56	20	20	36	0	0	44	36
	計	80	47	▲ 33	24	37	24	56	20	20	36	0	0	44	36
尾鷲	普通	70	67	▲ 3	21	52	23	47	49	47				70	0
	プログレッシブ コース	30	12	▲ 18	9	11	9	21	3	1	20	0	0	10	20
	情報ビジネス	30	24	▲ 6	9	17	9	21	12	16	5	0	0	25	5
	システム工学	30	29	▲ 1	9	18	10	20	20	20				30	0
	計	160	132	▲ 28	48	98	51	109	84	84	25	0	0	135	25
地域内高校 計		400	339	▲ 61	92	172	97	303	246	240	61	0	0	342	61

※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

※「R 5. 1 2 進学希望者数」は、県内の国公私立中学校３年生を対象に実施された調査結果

東紀州地域の高等学校への進学希望者数（令和5年7月・12月希望調査）と令和6年度入学者数
R6.3卒

高等学校校名		R6 入学 定員	各地域別の進学希望者数と入学者数																			
			熊野市			御浜町			紀宝町			入学数 小計		尾鷲市			紀北町			入学数 小計	入学数 合計	
			7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数					
全 日 制	木本高校	160	84	82	83	40	38	45	25	26	190			16	13	12	1	2	2	14	161	
	紀南高校	80	8	9	8	9	9	23	28	26	43				2	1	1	4	0	1	44	
	尾鷲高校	160	0	0	1	0	0	0	0	0	1				79	78	78	48	53	55	133	134
	東紀州地域の計	400	92	91	92	49	47	68	53	52	191				97	92	91	53	55	57	148	339
県内	地域外県立高校		1	2	2	2	2	0	1	1	5	51			5	3	7	24	23	22	29	34
	私立高校		3	3	2	0	1	1	1	1	4				3	5	6	7	5	4	10	14
	高専		0	0	0	0	0	0	1	1	1				2	6	1	3	2	2	3	4
	県外高校・高専 （うち和歌山県）※		3	3	2	8	10	10	15	29	29	41				3	4	4	0	0	0	4
その他（定時制/通信制/就職など）					(1)					(8)					(28)	(37)				(0)	(0)	(37)
回答・入学者数の計			107	107	107	61	61	92	92	92	260				120	120	120	92	91	93	213	473

※和歌山県への進学
（熊野市）

（紀宝町）
（公）新宮高校3人
（公）新翔高校1人
（公）熊野高校1人
（公）日高高校中津分校1人
（私）近大新宮高校22人

（御浜町）

（私）近大新宮高校8人

（私）近大新宮高校1人

※参考＞東紀州地域外の全日制高校・高専への進学理由
【調査方法】教育政策課による各中学校（熊野市・御浜町・紀宝町）への聞き取り

主たる進学理由			
大学進学	部活動	就職	その他
3市町合計	51	20	6
（うち近大新宮）	(31)	(17)	(0)

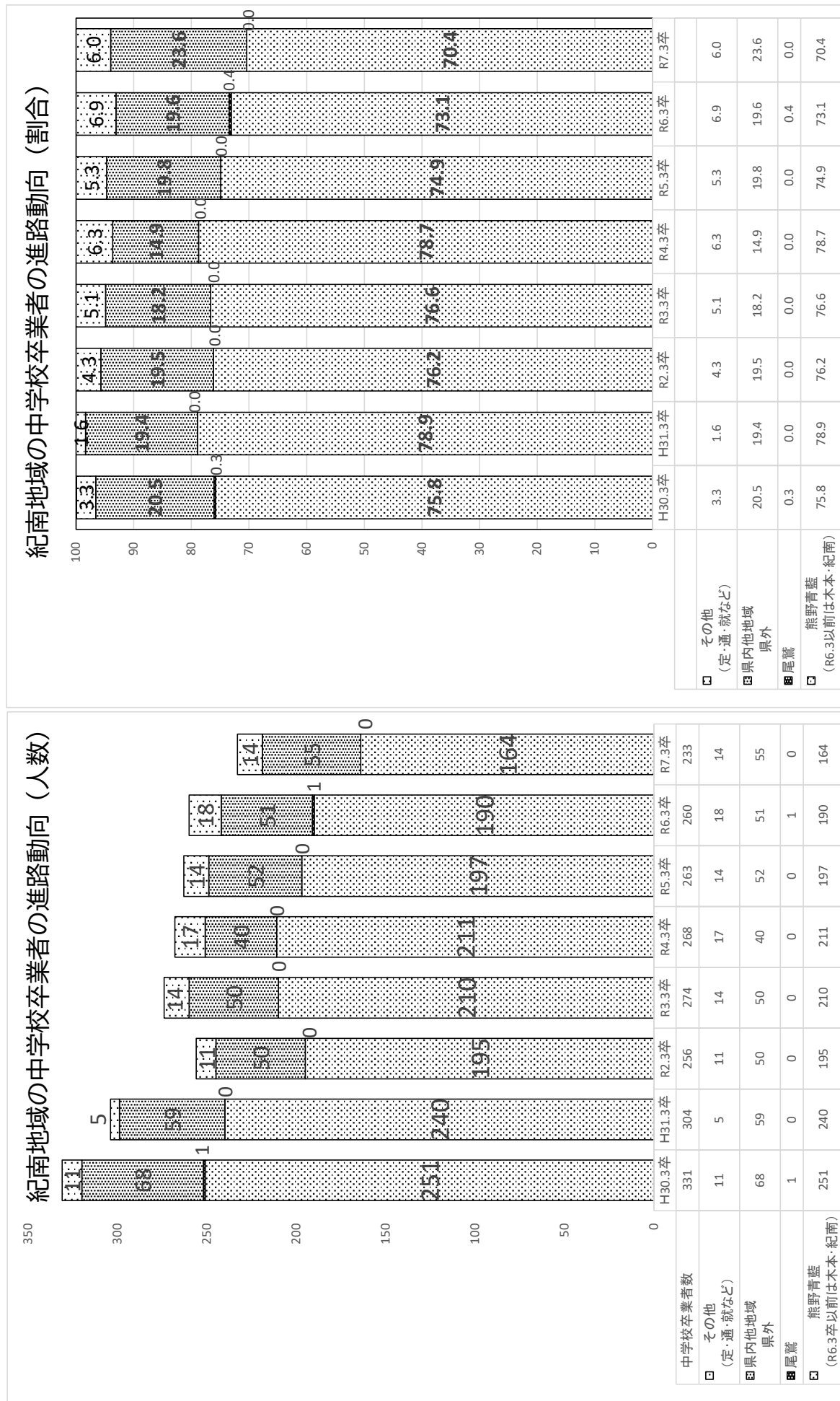
※部活動の種類：野球、サッカー、ソフトテニス、バスケットボール、柔道、剣道、空手

東紀州地域の高等学校への進学希望状況（令和6年7月・12月調査）と令和7年度入学者数【割合】
R7.3卒

高等学校校名		R7 入学 定員	各地域別の進学希望者数と入学者数【割合】																			
			熊野市			御浜町			紀宝町			入学数 小計			尾鷲市			紀北町			入学数 小計	入学数 合計
			7月	1 2月	入学数	7月	1 2月	入学数	7月	1 2月	入学数	7月	1 2月	入学数	7月	1 2月	入学数	7月	1 2月	入学数		
熊野青藍 高校	木本校舎	160	78.4	75.3	75.3	53.8	44.6	44.6	44.6	52.9	49.3	46.5	57.9	12.4	10.5	6.7	8.3	36.2	7.5			
	紀南校舎	40	1.0	0.0	2.1	26.2	20.0	20.0	20.0	14.3	16.9	19.7	12.4	1.0	1.0	1.0	1.1	7.5				
	計	200	79.4	75.3	77.3	80.0	64.6	64.6	64.6	67.1	66.2	66.2	70.4	13.3	11.4	7.6	9.4	43.7				
	尾鷲高校	160	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.7	61.0	68.6	54.7	23.9			
東紀州地域の計		360	80.4	75.3	77.3	80.0	64.6	64.6	64.6	67.1	66.2	66.2	70.4	79.0	72.4	76.2	64.1	67.6				
県内	地域外県立高校		1.0	1.0	1.0	3.1	6.2	6.2	6.2	1.4	1.4	1.4	2.6	4.8	6.7	5.7	16.0	8.5				
	私立高校		5.2	2.1	2.1	0.0	3.1	3.1	3.1	1.4	1.4	1.4	2.1	1.0	2.9	2.9	7.7	4.6				
	高専		1.0	2.1	2.1	3.1	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	1.4	1.3	1.0	2.9	1.9	1.7	1.4				
県外	県外高校・高専		4.1	9.3	9.3	10.8	20.0	20.0	20.0	25.7	26.8	26.8	17.6	5.7	5.7	4.8	2.8	11.1				
	(うち和歌山県)※				(5.2)			(18.5)				(25.4)	(15.0)			(0.0)	(0.0)	(8.5)				
その他（定時制/通信制/就職など）			8.2	10.3	8.2	3.1	6.2	6.2	6.2	2.9	2.8	2.8	6.0	8.6	9.5	8.6	7.7	6.8				
回答・入学者数の割合の計			100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100				

※割合は卒業者数（回答数）に対する割合（％）を表す

紀南地域の中学校卒業者の進路動向 ※資料4①～③をもとに作成



【資料 6】

熊野青藍高等学校の概要



木本校舎



紀南校舎

1 基本理念

◎ めざす学校像

持続可能な社会の一員として、ふるさとを想い、未来に希望を持って幸福を実現する人材を地域とともに育てる「開かれた学校」

○ 育みたい資質・能力

- ・ 自己肯定感を高め、夢や目標の実現に向けて主体的に学び続ける力（自立）
- ・ 人との出会い・つながりを大切にし、互いのよさを生かして協力・協働する力（共生）
- ・ 自分の可能性を信じ、何事にも積極的に挑戦し未来を切り拓く力（創造）

○ 学びのコンセプト

- ・ 「仲間とつながる」「地域とつながる」「全国・世界とつながる」
- ・ 「つながる」をキーワードに、2校舎が一体となった学びを推進することにより、木本高校と紀南高校におけるそれぞれの歴史や取組を引き継ぎ、新しい価値を創造する

2 各課程・学科・コース等の特色

【全日制】

≪普通科≫木本校舎3学級

- 国語・数学・英語等の共通教科を中心に、確かな学力等の「夢をかなえる力」を育成
 - ・ 特進コース
2年次から文系・理系に分かれ、発展的な学習により、主体的に学ぶ力を育成
 - ・ 普通コース
文系科目を中心に、理系科目の選択も含め、幅広い学びで自己のキャリアを形成

≪総合学科≫木本校舎1学級、紀南校舎1学級

(木本校舎)

- 系列ごとの選択科目と共通選択科目を選択
- 生徒による出前授業などで地域交流を推進
 - ・ リベラルアーツ系列
国語・数学・英語等の共通教科やスポーツ・芸術科目等から幅広く選択し学習
 - ・ 情報ビジネス系列
パソコン・会計系の資格取得等につながる実社会で役立つ科目を選択し学習

(紀南校舎)

- 長期就労体験（インターンシップ）を実施
- 地域での体験型授業が充実
 - ・ 地域デザイン系列
地域創造をめざした文系科目や共通選択科目等から幅広く選択し学習
 - ・ 産業マイスター系列
ビジネス・医療福祉系の科目等をはじめ、地域産業に関わる科目を選択し学習

【定時制】

≪普通科≫木本校舎1学級

- 一人ひとりのペースで「なりたい自分」を実現
- 仕事や社会生活と学習を両立
- 少人数での学び直しで、社会生活に必要な基礎学力を育成

【資料 7】

全日制課程の学びについて ～各学科（系列・コース）についてのQ & A～

○普通科（特進コース）について

Q 1 「特進コース」と名称が変わって、学ぶ内容も変わったのですか？

A 1 特進コースの内容は、選抜コースと大きく変わるわけではありません。すなわち、文系・理系のどちらにも対応できるカリキュラムの中で、各自の受験に必要な科目を中心に選択し、発展的な内容も含めて学びます。そのため、文系科目中心の普通コースと比べ、進学先の選択肢が大きく広がります。また、大学入学共通テストの科目もしっかりとカバーしています。



夏季集中セミナー(英語講座)

Q 2 特進コースの特色は何ですか？

A 2 いろいろありますが、主に以下のことが挙げられます。

- ①大学進学に対し、より重点を置いたカリキュラム
- ②高大連携講座や総合的な探究の時間での三重大学との連携、三重大学地域枠推薦の活用など、大学と連携した学び
- ③一般選抜だけでなく指定校推薦等などの多様な入試制度も積極的に活用した進路実現
- ④3年間同じ仲間とともに学び合える環境で、学習だけでなく学校行事等にも全力！
- ⑤学習と部活動を両立する生徒も多数（昨年度選抜コース生は約80%が部活動にも加入）



三重大学高大連携「東紀州講座」

Q 3 特進コースの目標は？

A 3 変化の激しい現代社会において、主体的に学び続け、様々な人と協働しながら、答えのない課題に対して失敗を恐れずにチャレンジする人材の育成を目標とし、その通過点の一つとして、国公立大学や難関私立大学への合格があります。生徒の皆さんには自分の進路をしっかりと見つめ、「入れる大学」よりも「自分が本当に入りたい大学」への入学をめざしてほしいと思います。その進路実現のために前述のカリキュラムや「コース担任会議」はじめとした、大学進学に重きを置いた進路指導体制により、生徒一人ひとりの学力を伸ばします。また、進路に関わらず、「将来のためにしっかり勉強しておきたいから」と考えて希望される方も大歓迎です。

Q 4 これまでの木本高校の選抜コースは、大学の一般選抜（学力試験が中心）で合格するためのコースだったので、大学の指定校推薦枠は普通コースや総合学科の生徒のためのものですか？

A 4 これまでの木本高校の「選抜コース」は、一般選抜で難関大学に合格するための学力をつけるコースというイメージが強いようですが、ここ数年で大学入試も変化し、国公立大学においても総合型選抜をはじめ、多様な形態の入試を実施しています。そのため、自身の進路実現のため、自分の強みを生かし推薦入試や総合型選抜を活用する生徒も珍しくありません。指定校推薦枠も「学びたい大学」で学ぶ方法の一つですので、特進コースにおいても生徒の進路希望に合わせ、必要に応じ指定校推薦枠等の活用も含めて、幅広い視点で進路指導をしていきます。



三重大学の先生による特別講義

Q 5 大学進学希望であっても、難関大学でなければ、普通コースの方がいいですか？

A 5 難関大学に限らず、多くの大学では、高校までにしっかりとした学力をつけた生徒が、大学入学後も学び続ける意欲や目的意識を持って入学してくれることを期待しています。そのことは、大学関係者のお話や、指定校推薦等の推薦要件などにも現れています。そのため、将来の大学進学を考えている人には、めざす大学の難易度に関わらず、大学入学後に必要な力をつけるためにも、ぜひ特進コースをお勧めします。

○総合学科（木本校舎）について

Q6 「情報ビジネス系列」では、どんなことを学ぶのですか？

A6 パソコンや会計など、実社会ですぐに役立つ資格の取得をめざす系列で、「商業科に近い」内容です。木本高校の「キャリアコース」と大きく変わることはありません。



キャリアコースでのパソコンの授業

Q7 「リベラルアーツ系列」では、どんなことを学ぶのですか？

A7 木本高校の「スタンダードコース」をベースとした「リベラルアーツ系列」は、普通科と同じような国語・数学・英語などの共通教科の科目や、芸術・スポーツ・家庭の専門科目などの幅広い科目の中から、自分が学びたいことを選んで学ぶ系列です。科目選択の仕方によって、普通科に近い進学向けの学習もできますし、上記の専門科目を中心にした学習もできるほか、「いろんな分野を少しずつ（広く浅く）」のような選択の仕方できます。



総合的な探究の時間の校内発表会

○総合学科（紀南校舎）について

Q 8 「総合進学コース」「医療・看護コース」「福祉コース」「ビジネスコース」「コミュニケーションコース」は、それぞれ「地域デザイン系列」「産業マイスター系列」のどちらの系列で選択できますか？

A 8 5つのコースはどちらの系列でも選択できます。科目選択のモデルによって5つのコースに分かれていますが、系列やコースに関係なく授業を選ぶことができます。

Q 9 紀南校舎の授業の特徴は？

A 9 「就労体験」「地域産業とみかん」「地域創造学」のように、地域を学びの場として、体験的に学ぶ科目が充実しています。



就労体験



地域産業とみかん



地域創造学

Q10 コミュニケーションコースでは、どんなことを学ぶのですか？

A10 紀南校舎では、「通級による指導」を実施します。「通級による指導」は、学習や生活上の困難を改善・克服することを目的としています。

※コミュニケーションコースでは、コミュニケーション等、社会で必要な力を身につけたい生徒が、「通級による指導」科目「ソーシャル・コミュニケーション」を選択し学びます。



ソーシャル・コミュニケーション

【資料 8】

定時制課程における学びについて

○ 少人数で安心して学べる環境

全日制のような大人数での学校生活に不安を感じる人も、安心して学ぶことができます。生徒一人ひとりの個性を理解し、生徒と教職員の信頼関係を大切にしたい、丁寧な指導を重視しています。また、中学校や関係機関との連携を積極的に行い、生徒の支援へとつなげていきます。学校生活をとおして、自分が大切な存在であることを実感するとともに、相手を大切にすることを育みます。

○ 多様な学習ニーズに対応

授業は1限が45分間で、1日4限。18時に始まり、21時15分に終了し、4年間の高校卒業をめざします。比較的ゆったりとした時間の流れの中で、自分のペースで学習を進めることができるのが定時制の魅力です。二学期制（前期：4月～9月、後期：10月～3月）で、半期ごとに単位認定しているため、単位の修得状況によっては4年次の前期末での卒業も可能です。また、単位制であるため前籍校で履修した科目や修得した単位も本校の卒業要件として有効であり、各種検定や技能審査の結果、高等学校卒業程度認定試験の合格科目を本校での修得単位として認めています。

○ 通信制との連携併修で、3年間での卒業も可能

定時制での単位修得とあわせて、2・3年次に松阪高等学校通信制の授業を併修し単位を修得することで、3年間での卒業も可能です。連携併修の授業は、1限目開始前（17時5分～17時55分）に本校で行われ、定期考査も本校で受験することができるため、松阪高等学校へのスクーリングの必要はありません。普段授業を担当している本校の教職員がレポート作成などの支援をするので、質問もしやすく安心して学習を進めることができます。

○ 学び直しからスタートし、学ぶ喜びを実感

義務教育段階での学習に不安があっても大丈夫です。授業ではこれまでの学習内容の学び直しをしっかりと行ったうえで、生徒の状況にあわせて、比較的ゆっくりとしたペースで、一つ一つ確実に学習を積み重ねていきます。これまで分からなかったことが、分かるようになり、教職員や仲間とともに学ぶ喜びを実感することができます。

○ アルバイトも可能で、自分の時間を有効活用

夕方からの授業なので、昼間は正規の仕事はもちろんアルバイトをすることも可能です。仕事やアルバイトをとおして得られるものもたくさんあり、社会的・職業的自立のためにも働くことを奨励しています。また、昼間は家でゆっくり自分の時間を過ごして、夕方からの授業に備える生徒もいます。

○ 「この学校に来てよかった」

卒業時に、生徒や保護者等が「この学校に来てよかった」と思ってもらえることが教職員の願いです。そのために、学校での学びをとおして、生徒一人ひとりと信頼関係を構築することを大切にしています。人との出会い・つながりを大切にしたい、あたたかい学校です。

令和7年度のこれまでの取組について（全日制課程）

(1) 両校舎が連携した取組

○ 「交流の日」（3校合同）【4月10日（木）】

- ・ 木本校舎体育館にて、熊野青藍高校両校舎、紀南高校、木本高校の3校合同で生徒の交流会を開催し、対面式と部活動紹介を実施



○ 第1回オンライン国際交流【7月15日（火）】

- ・ 13:30～15:00、両校舎同時に実施
- ・ 参加申込み生徒数 計19人（木本・紀南・熊野青藍）
- ・ 「三重県の魅力を海外に伝える」をテーマにインド、マレーシアの学生と交流
- ・ 第2回（予定）：12月19日（金）午後

◆校舎間バスの活用状況（4～6月）

	バス	目的	運行回数	主な利用生徒
4月	木本発	部活動	11	野球部、卓球部、バドミントン部、部活動見学
	紀南発	部活動	11	吹奏楽部、陸上競技部、写真部、書道部、部活動見学
		授業	1	地域産業とみかん
5月	木本発	部活動	10	野球部、卓球部、バドミントン部
	紀南発	部活動	12	吹奏楽部、陸上競技部、写真部
		授業	1	地域産業とみかん
6月	木本発	部活動	16	野球部、卓球部、バドミントン部
	紀南発	部活動	12	吹奏楽部、写真部、書道部
		授業	2	地域産業とみかん、日本史探究
合計	木本発	部活動	37	野球部、卓球部、バドミントン部
	紀南発	部活動	35	吹奏楽部、陸上競技部、写真部、書道部
		授業	4	地域産業とみかん、日本史探究

(2) 各校舎の取組

《木本校舎》

- 地震・津波避難訓練【4月21日（月）】
- J R乗車時地震・津波避難訓練【4月22日（火）】
- 避難所運営学習（2年生）【5月28日（水）】
 - ・ 熊野市、御浜町、紀宝町の各担当課の方々の協力・指導の下、体育館全体を使って避難所運営を体験的に学習



- 教育実習生と新任教員による進路講演会【5月30日（金）】
 - ・ 自分の進路決定において大切にしたことや、高校生の今、やっておくべきことなどをテーマに講演



- クラスマッチ【6月3日（火）】
 - ・ バレーボール、バドミントン、卓球、UNO、オセロ、eスポーツ、ユニカールを実施



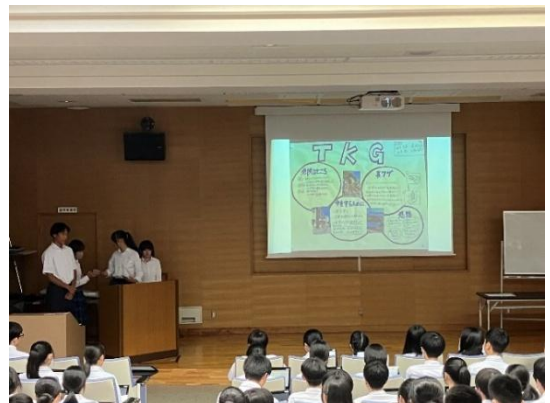
○ 人権学習【6月16日（月）】

- ・ 「携帯電話やスマートフォンの正しい使い方・SNSトラブルから身を守る（自他を大切にするために）」というテーマで学習



○ 防災プロジェクト発表会（2年生）【6月18日（水）】
（1年生）【7月 3日（木）】

- ・ 「南海トラフ地震が起こったら、私たちは生き残れるか？」などをテーマに班別に検討し、成果発表



○ 「AIの活用による英語教育強化事業」：三重県教育委員会（文部科学省委託）

- ・ 1・2年生総合学科の英語の授業で実施

≪紀南校舎≫

○ 新入生ガイダンス【4月14日（月）】

- ・ 新入生を対象とした各部講話・ガイダンスを実施
- ・ 教務部・進路指導部・人権担当教育当・生徒指導支援部からの講話、体育科のガイダンスを実施



○ 人権学習【4月22日（火）】

- ・ 1年生が「仲間づくり学習」をテーマに学習
- ・ 「聴き上手、話し上手になって新しい仲間のことを知る」を目標として、新しい人間関係づくりの第一歩を踏み出す



○ 浅間山避難訓練【4月16日（水）】

- ・ 新転任の教員とともに、海拔37mの地点まで登り、避難ルートを確認



○ 1学期クラスマッチ【5月21日（水）】

- ・ 男女混合ドッジビー、ボッチャを実施



○ 人権学習【5月28日（水）】

- ・ テーマ：「居心地の良いクラスにするために、自分にできることを考える」
- ・ 2か月間の自分自身の学校生活を振り返り、クラスのために自分にできることを考える



○ J R乗車時地震・津波避難訓練【5月29日（木）】

- ・ 列車からの避難方法、列車から人を安全に降ろすためのヒューマンチェーンの方法、津波が来たときの注意事項についての講義
- ・ 阿田和駅まで移動し、実際に列車に乗っての訓練を実施



【資料10】

部活動について

令和7年度の活動状況
＜運動部＞

部活動名	設置・活動の有無		普段の活動場所等	大会等への参加
	木本 校舎	紀南 校舎		
硬式野球	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度夏の選手権大会までは、平日は主に校舎別練習し、土日等は、紀南＋熊野青藍両校舎は紀南で、木本（2・3年）は木本で活動 その後については検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 7年度夏の選手権大会は、紀南＋熊野青藍両校舎と木本2・3年生単独の2チームで参加 その後は3校合同で参加
ラグビー	○		<ul style="list-style-type: none"> 木本校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加
サッカー	○		<ul style="list-style-type: none"> 木本校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加
陸上競技		○	<ul style="list-style-type: none"> 熊野RCとして練習 紀南校舎で活動する場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> 公式大会には3校合同で参加 その他の大会等には熊野RCまたは3校合同で参加
ソフトテニス（男女）	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本各校舎で活動 休日等は合同で活動する場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> 7年度県総体は校舎別で参加 その後は3校合同で参加
男子バスケットボール	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本各校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 基本は校舎別で参加 状況によっては3校合同チームでの参加
女子バドミントン	○	△	<ul style="list-style-type: none"> 基本各校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 7年度県総体は校舎別で参加 その後は3校合同で参加
男子バドミントン		○	<ul style="list-style-type: none"> 紀南校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 紀南・熊野青藍（両校舎）合同で参加
女子バレーボール	○		<ul style="list-style-type: none"> 木本校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加
体操	○		<ul style="list-style-type: none"> 木本校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加
卓球	△	○	<ul style="list-style-type: none"> 平日の練習は各校舎で活動するが、紀南校舎での合同練習もある 水・日曜日は原則、紀南校舎で合同で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 3校合同で参加
柔道	○		<ul style="list-style-type: none"> 木本校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加
剣道	○		<ul style="list-style-type: none"> 木本校舎で活動 	<ul style="list-style-type: none"> 木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加

<文化部>

部活動名	設置・活動の有無		普段の活動場所等	大会等への参加
	木本校舎	紀南校舎		
茶道	○	○	・各校舎で活動	・3校合同で参加
書道	○	○	・基本各校舎で活動	・7年度は校舎別で参加
吹奏楽	○	△	・基本は木本校舎で活動 ・校舎別で活動することもある	・3校合同で参加
J R C (青少年赤十字)	○	○	・各校舎で活動	・校舎別で参加
美術	○	○	・各校舎で活動	・7年度は校舎別で参加
漫画研究	○		・木本校舎で活動	・木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加
写真	○		・木本校舎で活動	・木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加
放送	○		・木本校舎で活動	・木本・熊野青藍（両校舎）合同で参加
家庭		○	・紀南校舎で活動 ・ただし、令和8年度までで活動を終了する	・なし

※△がある部活動は、メインの練習は○の校舎で行うが、△の校舎にも練習場所がある

【資料 11】

今後の取組について

(1) 学校行事について

① 修学旅行（令和8年度）

現1年生は、令和8年10月下旬に、関西・中国方面への旅行を両校舎合同で実施予定

② 体育祭・文化祭など

○ 木本高校・紀南高校と併存する令和7・8年度は、それら2校と合同で校舎別に行う。将来の合同開催に向け、令和7年度は両校の行事が同時期となるよう変更して開催

・ 体育祭：木本高校・木本校舎 6月（R6まで） ⇒ 10月29日

紀南高校・紀南校舎 11月5日

・ 文化祭：木本高校・木本校舎 9月27・28日

紀南高校・紀南校舎 11月（R6まで） ⇒ 10月3・4日

○ 各校舎での開催状況をふまえ、全日制1～3年生が熊野青藍高校で揃う令和9年度以降の開催方法を令和8年度中に決定

(2) 大学等の外部機関と連携した学びについて

昨年度までの取組を引き継ぎ、今後も実施を計画していく

① 三重大大学による「総合的な探究の時間」の授業（木本）

○ 三重大大学教員による地域課題に関する講義

○ 三重大大学の学生が授業に参加し、地域課題解決に向けた意見交換、交流

② 京都大学との「地域産業とみかん」での連携（紀南）

○ 京都大学大学院生および地域産業に携わる地域の方と、地域課題解決に向けた意見交換

(3) 広報活動

① 学校の取組についての広報資料を随時発行

② 学校ホームページにおける情報発信

③ 地元報道各社への記事掲載依頼

令和7年6月2日

中学3年生の生徒とその保護者の皆様へ

三重県立熊野青藍高等学校長

「熊野青藍高等学校 高校生活入門講座」について（ご案内）

高校進学を考えておられるみなさんに、授業体験や学校説明をとおして、熊野青藍高等学校のことを知っていただくために、「熊野青藍高等学校 高校生活入門講座」を下記のとおり開催いたします。多くの方の参加をお待ちしています。

記

1. 期 日 令和7年8月25日（月）
2. 場 所 熊野青藍高等学校 木本校舎および紀南校舎
3. 対 象 中学3年生およびその保護者、教職員
4. 日 程
 - 8：45～ 9：00 木本校舎で受付
 - 9：10～ 9：15 日程説明・連絡
 - 9：15～10：00 学校説明
 - 10：15～11：05 授業体験①
 - ※別紙1「木本校舎授業体験講座」から第3希望まで選択してください。
 - 11：10～11：40 部活動見学・進路相談（希望者）
 - ※午前のみ参加の方は解散
 - ※午後も参加する方は昼食休憩後、紀南校舎へ移動
 - 12：30～ 紀南校舎行きのバス（無料）出発
 - 12：55～13：10 紀南校舎で受付
 - 13：20～13：25 日程説明・連絡
 - 13：25～13：55 学校説明
 - 14：10～15：00 授業体験②
 - ※別紙2「紀南校舎授業体験講座」から第3希望まで選択してください。
 - 15：10～15：35 部活動見学・進路相談（希望者）
 - 15：35～ 希望者はバス（無料）で熊野市駅・木本校舎へ移動
 - ※午後のみ参加することもできます。

5. 参加申し込み方法

下記 URL または二次元バーコードを使用して、申込フォームから必要事項を各自で入力してください。

<URL>

<https://forms.office.com/r/E52veKh705>

令和7年度熊野青藍高等学校 高校生活入門講座申込フォーム



6. 申し込み締め切り 令和7年6月27日（金）

7. その他

- （1）筆記用具、ノート、上履き、下足用靴袋、弁当（午前、午後の両方に参加する場合）、各講座での準備物をご用意ください。
- （2）質問等がありましたら、事務担当までご連絡ください。
- （3）授業体験につきまして、参加していただく講座は各中学校を通して連絡します。（定員の関係で第1希望以外の講座となる場合もあります。ご了承ください。）
- （4）中止の場合、熊野青藍高等学校のホームページで案内いたします。

【事務担当】

（高校生活入門講座全般と木本校舎に関すること）

熊野青藍高等学校木本校舎 教頭 田岡 宏一

電話：0597-89-6242

（紀南校舎に関すること）

熊野青藍高等学校紀南校舎 准校長 池山 直子

電話：05979-2-4850

高校生活入門講座（木本校舎）

学科	記号	教科名 (定員)	講座名・内容
主に普通科の授業内容	A	国語 (30人)	『図形を他者へ伝える』 図形を言語化し、他者へ伝えてみましょう。
	B	社会 (25人)	『戦国時代に学ぶ』 戦国時代をテーマに日本史を学びます。
	C	数学 (20人)	『「ビブン」で世界の仕組みを知ろう！』 中学生でも理解できる微分講座を行います。
	D	理科 (25人)	『「地震・津波」の仕組みを知ろう！』 液状化現象など簡単な模擬実験を行います。
	E	普通科英語 (40人)	『高校英語体験』 教科書を使って Reading/Listening/Speaking/Writing を学ぼう。
主に総合学科の授業内容	F	書道 (8人)	『うちわ制作』 ・無地のうちわに文字を加えて、自分だけのオリジナル うちわを作り、書で表現する楽しさを体験します。 ・書きたい言葉を考えてきてください。 (漢字 1～4 字、短い言葉など) 例：輝 夏空 猪突猛進 ありがとう ※書道セット一式（太筆、小筆、墨液、すずり、文鎮、 半紙 20 枚）を各自で持参してください。
	G	音楽 (30人)	『CUPS!』 紙コップを使ったリズムゲームに挑戦しよう！
	H	総合学科英語 (30人)	『“Who am I?”』 知っている単語を使ってクイズを作ろう。
	I	商業・情報 (20人)	『地図の作成』 表計算ソフトを使用して、地図の作成方法を学びます。
	J	家庭 (16人)	『子どもの成長を学ぼう』 赤ちゃん人形を使って乳児の特徴を知ろう！
	K	保健体育 (30人)	『タグラグビー』 ラグビーからタックルなどの接触プレーをなくした ボールゲームです。誰でも簡単に安全に楽しむことが できます。 ※体操服、体育館シューズを持参してください。

※普通科・総合学科のどの授業体験を選択してもかまいません。



高校生活入門講座（紀南校舎）



番号	教科名 (定員)	講座名	内容
①	国語 (なし)	場所当てゲームをしよう！	自分の伝えたいことを言葉で伝えることは、なかなか難しいことです。 この講座では、「分かりやすい説明をしよう」というテーマで、話すことの楽しさをみなさんと一緒に学んでいきます。
②	数学 (16 人)	やってみよう♪ハノイの塔	ハノイの塔は、数学のパズルゲームです。 ルールに従ってゲームを進めながら、数の規則性について一緒に学んでみませんか？
③	英語 (なし)	Let's have fun with English! ～英語の世界へ Let's go!!～	やさしい英語を使って、いろいろな中学校の仲間たちと自己紹介やゲームなどを楽しんでみませんか。英語を使って新しい扉を開いてみよう！！
④	理科 (15 人)	バスボムを作ろう！	お風呂タイムを優雅にしてくれるバスボム。実は簡単に作れるんです！自分好みの色・においを選んでオリジナルのバスボムを作りましょう！合間に、家にあるものでもできるちょっとした科学マジックも紹介します！
⑤	社会 (なし)	都道府県ランキングゲーム	いろいろなお題から、各都道府県の特徴を知ろう！ もしかすると新発見があるかもしれない…。 ※ 中学校で使用している地図帳を持参してください。
⑥	商業 (25 人)	カレンダーを作ろう	表計算ソフト「エクセル」を使って、月別のカレンダーを作ります。
⑦	総合 (なし)	地域創造学	この授業では、地域の未来づくりをテーマに、防災・減災などの地域課題を解決したり、地域資源を生かしてまちづくりを行ったりする探究活動を行います。今回は、現在受講生が取り組んでいる「紀州犬プロジェクト」(※企画を変更する場合があります)を紹介し、自分たちにできる御浜町の魅力の商品化について考えていきたいと思います。
⑧	総合 (12 人)	地域産業とみかん	地域のみかん農業をテーマに、お店のPOPづくりに挑戦！ お客さんに「伝わる工夫」を2～3人のグループで考える探究的な授業です。
⑨	総合 (15 人)	こんなときどうする？ 楽しく学ぶ♪ コミュニケーション	あなたは人間関係で困ったことはありますか？なんでこうなっちゃったんだろう…。こんなはずだったんだけどなあ…。そんな悩みに対応できる考え方を、みんなで楽しく学びましょう。

【資料 13】

入学者選抜について

「令和８年度三重県高等学校入学者定員および入学者選抜に関する実施要項（令和７年７月発表）」より抜粋

1 前年度からの変更点

- ・ 保護者の転住を伴わない県外からの入学志願について
要項の「入学志願できる高等学校」のうち、「１学年３学級以下の高等学校又は校舎」を「１学年３学級以下の高等学校又は１学年１学級の校舎を有する高等学校」に変更した。
⇒ 令和８年度から木本校舎でも実施が可能となった。

学校名	変更前		変更後	
	校舎	募集人数	校舎	募集人数
熊野青藍	紀南校舎	前期 1 人以内 後期 1 人以内	紀南校舎 木本校舎	前期 2 人以内 後期 8 人以内

2 入学定員

- | | | | |
|-------|------|------|---------|
| ・ 全日制 | 木本校舎 | 普通科 | 120名 |
| | | 総合学科 | 40名 |
| ・ 定時制 | 紀南校舎 | 総合学科 | 40名 |
| | | 木本校舎 | 普通科 40名 |

3 前期選拔

- ・ 実施学科：全日制木本校舎総合学科、紀南校舎総合学科
- ・ 募集枠：各校舎・各学科定員４０名の３０％
- ・ 検査：学力検査（国語）、個人面接（１０分程度）

4 後期選抜

- ・ 実施学科：全日制 木本校舎普通科、木本校舎総合学科、紀南校舎総合学科
定時制 木本校舎普通科
- ・ 検査：全日制 学力検査（国語・数学・社会・英語・理科）
定時制 学力検査（国語・数学）、個人面接、作文